

## 第101回神戸大学経営協議会議事要録

日 時 令和3年11月24日（水） 13:30～15:20

場 所 神戸大学本部 大会議室 及び WEB（Webex使用）

出席者 藤澤議長（学長）、  
新井委員、齊藤委員、坂田委員、佐藤委員、高土委員、寺島委員、  
平尾委員、木戸委員、河端委員、奥村委員、中村委員、吉田委員、  
中尾委員、上野委員

（オブザーバー）外村監事、林監事、松尾副学長、喜多副学長、近藤副学長、  
眞庭副学長、西谷国際文化学術研究科長、南経営学研究科長、  
大川システム情報学研究科長、南医学研究科長

欠席者 金子委員、齋藤委員、坂井委員、久元委員、大村委員

議事要録について

第100回経営協議会の議事要録について、特段の意見はなく、役員会として確認の上、神戸大学のホームページに公表する旨説明があった。

審議事項 [委員からの主な意見等（○：意見・質問）]

- 1 ダイバーシティ&ヘルスケアセンター（仮称）の設置について  
本学が長期ビジョンにも掲げる、構成員一人ひとりが持てる力を最大限に発揮できるダイバーシティ&インクルーシブな環境実現のため、保健管理センター、キャンパスライフ支援センター及び男女共同参画推進室の3組織を統合し、令和4年4月1日から「ダイバーシティ&ヘルスケアセンター（仮称）」を設置することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。
- 2 全学基盤系基盤域の再編について  
全学基盤系基盤域について、令和4年4月1日より、現在の3基盤域（教育基盤域、研究基盤域、戦略・情報基盤域）から、2基盤域（教育基盤域、研究基盤域）に再編すること、また、各基盤域を構成する教育研究組織の変更等について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。
  - 教育基盤域会議、研究基盤域会議を設置し、第三者によるチェックを行うとあるが、誰が第三者としてチェックを行うのか？
    - 各会議の構成員となる基盤域長及び学長が指名する者などの学内者がチェックを行う。
  - 戦略・情報基盤域は全域にかかるものと思いがちだが、教育基盤域、研究基盤域に分けることによるメリット・デメリットについてどのように考えているのか？
    - 戦略・情報基盤域にある組織の内容を勘案し、教育基盤域、研究基盤域に分けるが、それぞれの組織の機能は変わらない。
  - このような会議体にすることによって、責任者と現場との感覚の乖離は生じないのか？
    - それぞれの基盤域に会議体は置くが、その中の教育研究組織の性質が変わるわけではない。また、戦略・情報基盤域をこのように分けるのは、

今後、DXなどの強化に資する組織再編を行うため、あらかじめ教育・研究にかかわる組織を教育基盤域、研究基盤域に再編するものである。

- 3 神戸大学における外部資金からのP I 等人件費支出制度について  
神戸大学における外部資金からのP I 等人件費支出制度の概要について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。
  - 神戸大学は総合大学なのでP I 等人件費を含む外部資金を獲得しやすい分野もあればそうではない分野もあると思われるが、獲得することが難しい分野について何か対応策は考えられているのか？
    - 地域社会と連携した共同研究や受託研究などについての部局間での差はそれほどないと考えており、この制度は、外部資金の獲得を促進するためのインセンティブ制度の構築である。
  - 直接経費をP I 等人件費に充てることによる研究の質の低下を招かないか？また、直接経費のうち何%まで人件費に充てることができるのか？
    - 共同研究などを行う相手側との協議により、研究の質の担保を前提に資料にある上限下限の範囲内で人件費額を決めることになる。今後、人件費額の上限下限の範囲の拡大に当たっては、当該研究にかかるエフォート管理などを含めた検討が必要となる。
- 4 学術研究推進機構「先端的異分野共創研究推進室」及び「異分野共創研究企画・創出委員会」の設置について  
先進的かつ世界最高水準の異分野共創型研究を推進するために、学術研究推進機構内に新たに先端的異分野共創研究推進室及び異分野共創研究企画・創出委員会を設置することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。
  - 先端的異分野共創研究推進室の先端的プロジェクトと異分野共創研究企画・創出委員会の研究ユニットはそれぞれどのくらいの支援額なのか？
    - 先端的プロジェクトと研究ユニットの支援額は現在検討中であるが、先端的プロジェクトと研究ユニットと支援額は大きく異なる額を考慮しており、具体的な額は来年度予算にて明らかにする予定である。
  - 先端的プロジェクトはいくつぐらいの数を想定しているのか？
    - 本学の現在の状況を鑑みると、先端的プロジェクトは3つくらいできれば上出来だと思っている。
  - 予算配分をどのような仕組みにするのかが難しいところだと思うが？
    - 全面的な支援は難しいので、外部資金を獲得してもらうことを前提に、研究がより活性化し、かつ研究資金がショートしないように大学としてバックアップしていきたい。
- 5 令和3年人事院勧告について  
令和3年人事院勧告に対する本学の対応に関して、給与改定の時期の条件としていた国家公務員の一般職の職員の給与に関する法律等が11月30日までに改正されない見込みのため、本年12月給与は引下げないことについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。
- 6 剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について  
令和2事業年度における剰余金の使途の承認申請書が10月28日付けで文部科学大臣から承認されたため、利益処分に関する書類のとおり決定することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

7 KU VISION 2030 の作成について

本学の教育・研究の目指すべき姿や取組等を広く分かりやすくステークホルダーに示し、本学の掲げる長期ビジョンを実現していくために第4期中期目標期間を含めた2030年に向けた「KU VISION 2030」を作成することについて説明があり、審議の結果、作成することを承認した。

- これまで神戸大学は「文理融合研究」、「卓越研究大学」をビジョンに掲げていたが、今回、「異分野共創研究」を新たなビジョンとして掲げたことをより明確にするためにも序文に「異分野共創研究」を説明する方がよい。
- 若手研究者の育成が大学の質を高めることになるので、若手研究者の育成に向けた資金や場所の提供、時間の確保などの環境整備に取り組んでいただくとともに、医工連携も重要な取組なので進めていただきたい。
- 全体を通して意欲的な取組を挙げているが、それぞれの取組を実施していくための進捗管理や予算管理などはどのように行うのか？
  - それぞれの取組のロードマップの概要を作成しているが、各取組のマイルストーンを定め、予算配分を考えながらスピード感をもって実施していきたい。

報告事項

- 1 業務上の余裕金の運用にかかる認定申請（第3関係）について  
業務上の余裕金の運用にかかる認定（第3関係）に向けて、文部科学省へ申請した旨報告があった。
    - 指定国立大学法人は別として、他の国立大学法人が業務上の余裕金の運用にかかる認定（第3関係）に申請していないのはなぜか？認定申請の要件はどのようになっているのか？
      - 業務上の余裕金の運用にかかる規程や管理体制の整備などが要件となり、本学以外でも認定の要件を満たしていると思われる大学はあると考えるが、これまで認定申請はしていないため、本学が初めて認定申請をする大学となる。
  - 2 病院セグメント 令和3（2021）年度上半期決算について  
病院セグメントの令和3（2021）年度上半期決算について報告があった。
  - 3 シンダイシンポ2021について  
シンダイシンポ2021の概要について報告があった。
- ◎ 次回は、令和4年1月24日に開催予定。